

英語学専攻分野

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 学期	曜日	講時	頁	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
英語学基礎特論Ⅰ	統語論と意味論における諸問題の研究Ⅰ	2	島 越郎	1学期	木	2	1	英語学特論Ⅰ
英語学特論Ⅰ	形態論とその周辺	2	西山 國雄	集中(1学期)			2	英語学特論Ⅲ
英語学特論Ⅱ	統語論・意味論インターフェイス研究	2	金子 義明	2学期	火	5	3	英語学特論Ⅱ
英語学総合演習Ⅰ	英語学の諸問題研究Ⅰ	2	金子 義明、島 越郎	1学期	水	2	4	対応科目なし
英語学総合演習Ⅱ	英語学の諸問題研究Ⅱ	2	金子 義明、島 越郎	2学期	水	2	5	対応科目なし
英語学研究演習Ⅰ	統語論・音韻論インターフェイス研究	2	金子 義明	1学期	火	5	6	英語学研究演習Ⅰ
英語学研究演習Ⅱ	統語論と意味論における諸問題の研究Ⅱ	2	島 越郎	2学期	木	2	7	英語学研究演習Ⅱ

科目名：英語学基礎特論Ⅰ／English Linguistics (Basic Lecture)Ⅰ

曜日・講時：前期 木曜日 2講時

学期：1学期，単位数：2

担当教員：島 越郎（教授）

講義コード：LM14207，科目ナンバリング：LGH-LIN601J，使用言語：日本語

【（平成30年度以前入学者）対応科目名：英語学特論Ⅰ】

1. 授業題目：

統語論と意味論における諸問題の研究Ⅰ

2. Course Title（授業題目）：

Topics in Syntax and SemanticsⅠ

3. 授業の目的と概要：

生成文法における統語論や意味論の最新の研究を批判的に検討し、今後の理論展開の可能性を探る。

今年度は、Tanya Reinhart (2016) Concepts, Syntax, and Their Interface (MIT Press) を精読する。

4. 学習の到達目標：

統語論と意味論における最新動向を把握する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：導入

第2回：非対格に関する問題

第3回：意味役割の原始的素性

第4回：非対格を示す動詞のクラス

第5回：非対格に関する意味的分析

第6回：非対格に関する使役化分析

第7回：非対格における意味的素性の削除

第8回：素性削除の制限

第9回：意味役割と含意

第10回：経験項の交替現象

第11回：経験項の削除

第12回：名詞句併合の順序

第13回：意味役割と素性

第14回：意味役割と格

第15回：まとめ

6. 成績評価方法：

レポート [80%] 授業における貢献度 [20%]

7. 教科書および参考書：

Tanya Reinhart (2016) Concepts, Syntax, and Their Interface (MIT Press)

8. 授業時間外学習：

担当箇所は勿論のこと、担当外の箇所についてもしっかり予習し、不明な点を整理しておくこと。

9. その他：なし

生成文法に関する基礎的知識を前提とする。

科目名：英語学特論Ⅰ／ English Linguistics(Advanced Lecture)Ⅰ

曜日・講時：前期集中 その他 連講

学期：集中(1学期)， **単位数：**2

担当教員：西山 國雄（非常勤講師）

講義コード：LM98822， **科目ナンバリング：**LGH-LIN603J， **使用言語：**日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： 英語学特論Ⅲ 】

1. 授業題目：

形態論とその周辺

2. Course Title (授業題目)：

Morphology and related domains

3. 授業の目的と概要：

本授業では、形態論を中心にそれと関連する統語論、音韻論を扱い、更に歴史言語学やフィールドワークにも触れる。対象となる言語は、英語と日本語が中心となるが、それ以外の言語、特にオーストロネシア語族も扱う。問答形式で、思考過程や論述方法も重視する。各授業の最後に簡単な振り返りノート（コメント）を書いてもらう。

4. 学習の到達目標：

受講生が、形態論は様々な部門や言語と関連することを理解し、各自の研究を行う際の視野が広げられる。言語学の論述方法が理解、実践できる。自分の研究スタンスが相対化できる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 形態論史概観
2. 英語形態論(1)：派生形態素の分類と制約
3. 英語形態論(2)：派生の順序付け
4. 英語形態論(3)：動詞由来複合語
5. 日本語形態論(1)：動詞の活用
6. 日本語形態論(2)：形容詞と形容動詞
7. 日本語形態論(3)：複合動詞
8. 日本語形態論(4)：使役と受け身の形態統語
9. 日本語形態論(5)：連濁とアクセント
10. 日英語を超えて(1)：能格性
11. 日英語を超えて(2)：接辞と一致
12. 生成文法を超えて(1)：歴史言語学とオーストロネシア語族
13. 生成文法を超えて(2)：フィールドワークと少数言語の保存
14. 進行中の研究(1)：日本語の動詞由来複合語と複合形容詞
15. 進行中の研究(2)：日本語の「ない」イディオム

6. 成績評価方法：

出席状況、振り返りノート、課題レポートを総合的に評価する。

7. 教科書および参考書：

開校時にプリントを配布する。

参考書については、授業中に適宜紹介する。

8. 授業時間外学習：

復習や発展学習として、興味を持ったトピックの文献にあたることが求められる。

9. その他：なし

課題レポートのテーマは、授業に触れたことでも、各自が現在進行中の研究のその時点での報告でもいいが、前者が望ましく、両方に関わるのが理想的である。いずれにしろ、理論を取り払っても新しい「何か」が残るレポートを期待する。

科目名：英語学特論Ⅱ／ English Linguistics (Advanced Lecture) II

曜日・講時：後期 火曜日 5 講時

学期：2 学期, **単位数：**2

担当教員：金子 義明 (教授)

講義コード：LM22505, **科目ナンバリング：**LGH-LIN604J, **使用言語：**日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 英語学特論Ⅱ 】

1. 授業題目：

統語論・意味論インターフェイス研究

2. Course Title (授業題目)：

Syntax-Semantics Interface

3. 授業の目的と概要：

生成文法理論による統語論・意味論 (及び語用論) のインターフェイスに関わる具体的研究をとりあげ、研究動向を把握し、今後の理論進展の方向を探る。

4. 学習の到達目標：

生成文法理論による統語論・意味論インターフェイス研究の動向を把握し、今後の研究に活用する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は、講義、学生の発表、ディスカッションにより構成される。内容およびスケジュールは以下の通りである。

- 1 ガイダンス
- 2 関係の派生(1)：語間の関係
- 3 関係の派生(2)：下から上への関係理論
- 4 語彙投射および項のタイプ(1)：語彙投射のタイプと項のタイプ
- 5 語彙投射および項のタイプ(2)：関係の派生の精緻化
- 6 修飾(1)：副詞的修飾
- 7 修飾(2)：形容詞的修飾
- 8 語順の変異(1)：n 投射内の語順変異
- 9 語順の変異(2)：v 投射内の語順変異
- 10 形態論の役割(1)：形態的交替
- 11 形態論の役割(2)：非主題項の選択
- 12 演算子(1)：助動詞倒置と do 挿入
- 13 演算子(2)：wh 選択と島の効果
- 14 省略
- 15 まとめとディスカッション

6. 成績評価方法：

授業における発表(30%)と期末レポート(70%)

7. 教科書および参考書：

テキスト：John Bowers (2018), *Deriving Syntactic Relations*, Cambridge University Press.

参考書：原口庄輔・中村捷・金子義明 (編)『増補版 チョムスキー理論辞典』研究社

8. 授業時間外学習：

十分な予習を行うこと(2 時間)。授業後は論点を整理し、自分の研究テーマとの関連性に留意した学習を行うこと(2 時間)。

9. その他：なし

取り上げる具体的内容は、緊急性の高い重要な文献の発表等があった場合、変更の可能性はある。

科目名：英語学総合演習 I / English Linguistics (Integration Seminar) I

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

学期：1 学期, **単位数：**2

担当教員：金子 義明、島 越郎（教授）

講義コード：LM13205, **科目ナンバリング：**LGH-LIN607J, **使用言語：**日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 対応科目なし 】

1. 授業題目：

英語学の諸問題研究 I

2. Course Title (授業題目)：

Current Topics in English Linguistics (Advanced Seminar) I

3. 授業の目的と概要：

英語学研究の最新の動向を把握し、各自の学習・研究の進展に役立てることを目的とする。授業は次の 3 部から構成される。

①最新の研究論文を担当者がオーラル・レポートする。

②討論者がコメントを加える。

③授業の参加者全員でディスカッションを行う。

授業に参加する者は、前もって論文に目を通し、積極的にディスカッションに参加することが望まれる。

4. 学習の到達目標：

①英語学研究の最新動向を把握する

②研究論文の実践的作成法が身に付く

③効果的プレゼンテーション力が身に付く

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第 1 回：導入

第 2 回：省略現象に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第 3 回：極性表現に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第 4 回：名詞表現に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第 5 回：数量詞に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第 6 回：名詞句内の省略に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第 7 回：受け身に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第 8 回：Tough 構文に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第 9 回：島の制約に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第 10 回：空項に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第 11 回：イベント項に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第 12 回：ラベル付けに関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第 13 回：省略と移動に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第 14 回：項構造に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第 15 回：まとめ

6. 成績評価方法：

期末レポート

7. 教科書および参考書：

取り上げる論文は英語学研究室ホームページで前もって通知する。参考文献・参考書は随時紹介する。

8. 授業時間外学習：

取り上げる論文は英語学研究室ホームページで前もって通知するので、読んだ上で参加すること。

9. その他：なし

科目名：英語学総合演習Ⅱ／ English Linguistics (Integration Seminar) Ⅱ

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

学期：2 学期, **単位数：**2

担当教員：金子 義明、島 越郎（教授）

講義コード：LM23204, **科目ナンバリング：**LGH-LIN608J, **使用言語：**日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 対応科目なし 】

1. 授業題目：

英語学の諸問題研究 Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：

Current Topics in English Linguistics (Advanced Seminar) Ⅱ

3. 授業の目的と概要：

英語学研究の最新の動向を把握し、各自の学習・研究の進展に役立てることを目的とする。授業は次の 3 部から構成される。

①最新の研究論文を担当者がオーラル・レポートする。

②討論者がコメントを加える。

③授業の参加者全員でディスカッションを行う。

授業に参加する者は、前もって論文に目を通し、積極的にディスカッションに参加することが望まれる。

4. 学習の到達目標：

①英語学研究の最新動向を把握する

②研究論文の実践的作成法が身に付く

③効果的プレゼンテーション力が身に付く

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第 1 回：導入

第 2 回：アスペクトに関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第 3 回：移動と束縛に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第 4 回：動詞句構造に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第 5 回：二重目的語構文に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第 6 回：例外的格付与構文に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第 7 回：知覚動詞に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第 8 回：中間動詞に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第 9 回：右方向移動に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第 10 回：コントロール現象に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第 11 回：擬似分裂文に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第 12 回：否定繰り上げに関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第 13 回：空項とヴォイスに関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第 14 回：数量詞の解釈に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第 15 回：まとめ

6. 成績評価方法：

期末レポート

7. 教科書および参考書：

取り上げる論文は英語学研究室ホームページで前もって通知する。参考文献・参考書は随時紹介する。

8. 授業時間外学習：

取り上げる論文は英語学研究室ホームページで前もって通知するので、読んだ上で参加すること。

9. その他：なし

科目名：英語学研究演習 I / English Linguistics (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 火曜日 5 講時

学期：1 学期, **単位数：**2

担当教員：金子 義明 (教授)

講義コード：LM12505, **科目ナンバリング：**LGH-LIN611J, **使用言語：**日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 英語学研究演習 I 】

1. 授業題目：

統語論・音韻論インターフェイス研究

2. Course Title (授業題目)：

Syntax-Phonology Interface

3. 授業の目的と概要：

生成文法理論による統語論・音韻論・意味論のインターフェイスに関わる具体的研究をとりあげ、研究動向を把握し、今後の理論進展の方向を探る。

4. 学習の到達目標：

生成文法理論による統語論・音韻論・意味論インターフェイス研究の動向を把握し、今後の研究に活用する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は、講義、学生の発表、ディスカッションにより構成される。内容およびスケジュールは以下の通りである。

1 ガイダンス

2 文法におけるイベントと状況への入門 (1)：統語論・意味論の写像の言語的一般化と制約

3 文法におけるイベントと状況への入門 (2)：イベントと助動詞

4 英語の進行形(1)：進行形の統語特性

5 英語の進行形(2)：進行形の意味特性

6 受動態と受動分詞(1)：-en/-ed における状態分詞

7 受動態と受動分詞(2)：イベント受動態

8 分詞、完了形、および時空領域(1)：英語完了形の意味論的背景

9 分詞、完了形、および時空領域(2)：intermediate Evidential Stare としての完了形

10 法助動詞と時空領域(1)：法助動詞の統語特性

11 法助動詞と時空領域(2)：法助動詞の意味特性

12 法助動詞と一般化投錨 (1)：法助動詞の時の特性

13 法助動詞と一般化投錨 (2)：認識様態のモダリティ

14 助動詞語順再訪

15 まとめとディスカッション

6. 成績評価方法：

授業における発表(30%)と期末レポート(70%)

7. 教科書および参考書：

テキスト：Gillian Catrina Ramchand (2018) Situations and Syntactic Structures: Rethinking Auxiliaries and Order in English, MIT Press.

参考書：原口庄輔・中村捷・金子義明 (編)『増補版 チョムスキー理論辞典』研究社

8. 授業時間外学習：

十分な予習を行うこと(2 時間)。授業後は論点を整理し、自分の研究テーマとの関連性に留意した学習を行うこと(2 時間)。

9. その他：なし

取り上げる具体的内容は、緊急性の高い重要な研究の発表等があった場合、変更の可能性はある。

科目名：英語学研究演習Ⅱ／ English Linguistics (Advanced Seminar) Ⅱ

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

学期：2 学期， 単位数：2

担当教員：島 越郎（教授）

講義コード：LM24209， 科目ナンバリング：LGH-LIN612J， 使用言語：日本語

【（平成 30 年度以前入学者）対応科目名： 英語学研究演習Ⅱ 】

1. 授業題目：

統語論と意味論における諸問題の研究 Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：

Topics in Syntax and Semantics Ⅱ

3. 授業の目的と概要：

生成文法における統語論や意味論の最新の研究を批判的に検討し、今後の理論展開の可能性を探る。

今年度は、Tanya Reinhart (2016) Concepts, Syntax, and Their Interface (The MIT Press)を精読する。

4. 学習の到達目標：

統語論と意味論における主要な問題に取り組み、その解決案を提示できる。

5. 授業の内容・方法と進捗予定：

第1回：導入

第2回：束縛と再帰形

第3回：束縛における基本操作

第4回：再帰化

第5回：意味役割システム

第6回：統語と形態のインターフェース

第7回：語彙と統語のパラメーター

第8回：再帰的接語の意味

第9回：再帰的接語と統語構造

第10回：再帰的接語の導入位置

第11回：再帰的接語とプロキシの読み

第12回：再帰的接語の移動

第13回：英語とオランダ語における再帰化の違い

第14回：再帰化に関するパラメーター

第15回：まとめ

6. 成績評価方法：

レポート [80%] 授業における貢献度 [20%]

7. 教科書および参考書：

Tanya Reinhart (2016) Concepts, Syntax, and Their Interface (The MIT Press)

8. 授業時間外学習：

担当箇所は勿論のこと、担当外の箇所についてもしっかり予習し、不明な点を整理しておくこと。

9. その他：なし

生成文法に関する基礎的知識を前提とする。